

AI戦略2019と数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度について

●背景・目標

✓ デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要

✓ AI戦略2019の育成目標（2025年度）

①リテラシー：約50万人/年（全ての大学・高専生） ②応用基礎：約25万人/年 ③エキスパート：約2,000人/年 ④トップ：100人程度/年

●主な取組

- (1) トップ人材の育成・学位のブランド化
- (2) コンソーシアム活動
- (3) 認定制度の構築・運用

●認定制度とAI戦略2019との関係

育成目標【2025年】

エキスパート

2,000人/年

トップクラス育成
100人程度/年

応用基礎

25万人/年

(高校の一部、高専・大学の50%)

リテラシー

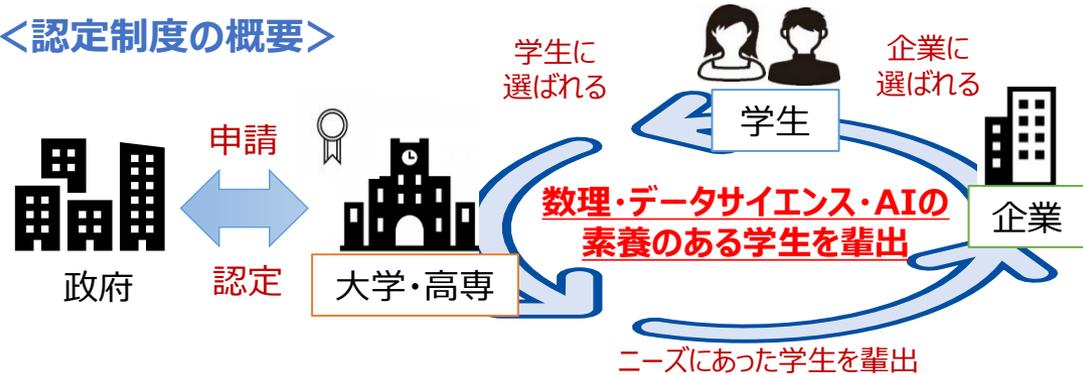
50万人/年

(大学・高専卒業生全員)

100万人/年

(高校卒業生全員)(小中学生全員)

<認定制度の概要>



大学・高等専門学校の数理工学教育に関する正規課程教育のうち、一定の要件を満たした**優れた教育プログラムを政府が認定**し、応援！
多くの大学・高専が数理工学教育に取り組むことを後押し！

【応用基礎レベル：2022年度から】

数理工学を活用して課題を解決するための**実践的な能力**を育成

認定数：147件（2023年8月時点）

※特に優れたものをプラスとして16件選定

【リテラシーレベル：2021年度から】

学生の数理工学への関心を高め、適切に理解し活用する**基礎的な能力**を育成

認定数：382件（2023年8月時点）

※特に優れたものをプラスとして25件選定

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 概要

AI戦略2019

(令和元年6月統合イノベーション戦略推進会議決定)

AIに関連する産業競争力強化や技術開発等についての総合戦略を策定。
この中で2025年までの人材育成目標を設定

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル） / （応用基礎レベル）」の創設について
報告書に基づき、制度設計

認定教育プログラム（リテラシーレベル） （MDASH*-Literacy）



目的：デジタル社会の基礎的な素養（いわゆる「読み・書き・そろばん」）として
初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得
目標：すべての大学・高専生（約50万人／年）

認定教育プログラム（応用基礎レベル） （MDASH*-Advanced Literacy）



目的：自らの専門分野において、数理・データサイエンス・AIを応用・活用
することができる応用基礎力を習得
目標：文理を問わず、一定規模の大学・高専生（約25万人／年）

* Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education

認定要件：

- 大学、短期大学、高等専門学校の**正規の課程**
- 学生に広く実施される教育プログラム（**全学開講** ※応用基礎レベルの場合は、学部・学科単位による申請可）
- 具体的な計画の策定、公表
- 学生の関心を高め、かつ、必要な知識及び技術を体系的に修得（モデルカリキュラム参照）
- 学生に対し履修を促す取組の実施
- 自己点検・評価の実施、公表
- 当該教育プログラムを実施した実績のあること

プラス選定要件：大学等の特性に応じた特色ある取組が実施されていること

認定教育プログラム（リテラシーレベル）**プラス** （MDASH-Literacy+）



認定教育プログラム（応用基礎レベル）**プラス** （MDASH-Advanced Literacy+）



●認定手続き等

- 審査は**外部有識者（内閣府・文部科学省・経済産業省が協力して選定）**により構成される**審査委員会**において実施
- 審査の結果を踏まえ、文部科学大臣が認定・選定
- 取組の横展開を促進するため、3府省が連携して認定・選定された教育プログラムを積極的に広報・普及

- スケジュール** 3月：公募開始 5月：申請受付締切 8月：認定・選定結果の公表 ➔ 毎年同様のスケジュールで実施予定